

第 37 期（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日） 事業報告書

第 37 期、2023 年度（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）は、基調事業としての奨学金助成、国際交流助成等の助成事業を実施し、またその他事業として、機関誌「財団だより第 20 号」の発行と関係先への配布及び財団ホームページの管理・運営を継続、実行いたしました。

財団の財政収支面では、双日㈱から公益目的事業費及び管理費の使途として 1,000 万円の寄付を受けました。

基本財産の運用においては、4,492 万円の運用収益を確保し寄付金を加えた経常収益合計では 5,492 万円となりました。経常費用は事業費△4,758 万円、管理費△988 万円の合計△5,747 万円となり△254 万円の経常収支の減額となりました。

基本財産を形成している債券の価額は時価評価増減を主として前期末比 3,777 万円増加となり、今期末の基本財産額は 22 億 3,174 万円となりました。

〔I〕 今期の事業の概要

a. 助成事業

今年度の助成事業は 2023 年度事業計画に定められた奨学金助成を含む 36 案件に助成を実施し、助成実績総額は、3,869 万円となりました。

以下に、各助成案件の概要を報告いたします。

イ) 学術研究助成

- ・今期は応募なし

ロ) 奨学金助成

1 当財団奨学金制度による外国人私費留学生への奨学金助成 (2,394 万円)

2023 年度も指定 21 大学の中から、奨学生の出身国がなるべく重複しないよう、より多くの国籍出身者から 24 名を選考し奨学金を支給した。

- | | |
|------------------------|-------------|
| ① 北海道大学 現代日本学プログラム | 学部生 (イギリス) |
| ② 千葉大学 文学部 人文学科 | 学部生 (韓国) |
| ③ 立命館アジア太平洋大学 国際経営学部 | 学部生 (ベトナム) |
| ④ 立命館アジア太平洋大学 国際経営学部 | 学部生 (タイ) |
| ⑤ 国際大学 国際関係学研究所 | 院生 (ウガンダ) |
| ⑥ 国際大学 国際関係学研究所 | 院生 (ウガンダ) |
| ⑦ 国際大学 国際経営学 MBA プログラム | 院生 (インド) |
| ⑧ 岡山大学 ヘルスシステム統合科学研究科 | 院生 (ガーナ) |
| ⑨ 岡山大学 社会文化科学研究科 | 院生 (インドネシア) |
| ⑩ 筑波大学 理工学群 社会工学 | 学部生 (モンゴル) |

⑪ 筑波大学 数理物質科学研究群	院生 (台湾)
⑫ 大阪大学 外国語学部 外国語学科	学部生 (中国)
⑬ 神戸大学 国際人間科学部 発達コミュニティ学科	学部生 (韓国)
⑭ 東北大学 医学系研究科	院生 (シンガポール)
⑮ 東京大学 経済学研究科 マネジメント	院生 (中国 内モンゴル)
⑯ 東京工業大学 情報理工学院情報工学	院生 (中国)
⑰ 一橋大学 言語社会研究科	院生 (台湾)
⑱ 早稲田大学 アジア太平洋研究科	院生 (マレーシア)
⑲ 慶応大学 経営管理研究科	院生 (台湾)
⑳ 上智大学 地球環境学研究科	院生 (メキシコ)
㉑ 上智大学 グローバル・スタディーズ研究科	院生 (アメリカ)
㉒ 名古屋大学 工学研究科	院生 (マレーシア)
㉓ 京都大学 農学研究科 生物資源経済学	院生 (韓国)
㉔ 広島大学 医系科学研究科	院生 (中国)

ハ) 国際交流助成 (1,475 万円)

(国際会議等)

2 「第 75 回 日米学生会議」 (40 万円)

5 月の春合宿に始まり、防衛大学での「安全保障研修」、現地学生との交流を通じた「台湾自主研修」の日本側メンバーでの事前活動を経て、8 月の本会議はアメリカ側参加者 35 名を含め 4 年ぶりに京都、長崎、東京の各サイトで対面開催された。京都サイトで「伝統と革新・グローバル化」について、長崎サイトでは「平和」「安全保障」について学び、最終東京サイトでは、成果発表会が行われた。

開催時期： 2023 年 8 月 2 日～26 日 (本会議)

開催地： 日本：京都・長崎・東京

参加人員： 日本 36 名、 米国 35 名 計 71 名

3 「第 42 回 日中学生会議」 (40 万円)

駐中国元大使など外部講演者による 4 回の講演イベントを経て、8 月の本会議では「対話で紡ぐ次なる関係」の理念のもと、日中の学生が参加し様々な制約がある中、中学生会議史上初めて香港の中文大学で開催された。10 日間の香港イベントでは、教育格差、ジェンダーなどの各分科会活動に加え、香港、マカオ観光で交流を図った。最終日は東京、珠海 (中国) をオンラインで繋ぎ報告会を開催し、日中友好への裾野を広げる学生交流を終えた。

開催時期： 2023 年 8 月 3 日～13 日 (香港期間) 14 日～21 日 (日本期間) (本会議)

開催地： 香港、東京、珠海 (中国)

参加人員： 日本 26 名、中国 18 名 計 44 名

4 「京論壇 2023」 (30 万円)

2005 年創設。東大と北京大の学生から成るディスカッション団体。年 2 回 (北京、東京) 各 1 週間にわたるセッションが活動の中心で、本年度のテーマは「技術倫理と情報化社会」「アイデンティティ：対立と理解」「人口構成」で激しい議論が展開される。参加者が深い人的交流を通して将来の知日派・知中派として日中交流の架け橋となり、社会で広く活躍するきっかけになることを目指す。

開催時期： 2023年8月10日～16日（東京セッション）

2024年2月13日～19日（北京セッション）

開催地： 東京・北京

参加人員： 日本21名、中国19名 計40名

5「第39回 日韓学生フォーラム」 (40万円)

事前活動である日本学生間での勉強会、そして今期から初めて取り入れた韓国との合同勉強会を経て、8月のメインフォーラムでは、歴史・政治面で、日韓間で長年抱えている幅広い問題について、学生の立場から議論し相互理解を深め、未来志向の日韓関係構築を目指す活動を行うことができた。京セラ、呉服問屋への企業訪問、更にウトロ平和祈念館を訪問し在日コリアン差別問題を考える機会もあった。

開催時期： 2023年8月4日～12日

開催地： 東京・大阪・京都

参加人員： 日本16名、韓国14名 計30名

6「第27期 日本インド学生会議」 (50万円)

「身近な水と共に、持続可能な未来を築く」を本年度テーマとし、公衆衛生、災害時の水資源の確保、地域格差など様々な切り口で議論し、日印学生間人的交流の拡大に寄与できたことは非常に有意義であった。また大使館、領事館、JETRO、JICA、日本企業などから多くの学びの機会も得られた。

開催時期： 2023年8月6日～9月1日

開催地： インド（コルカタ・チェンナイ・デリー）

参加人員： 日本11名、インド20名 計31名

7「第34回 日露学生会議」 (40万円)

日露両政府間の相互不信が固定化している中、日露学生の文化的、学術的交流を通して、異文化理解、相互理解を促進し、二国間の発展に貢献することを目的とした会議で、政治経済、農業・エネルギー、カルチャーをテーマとした本会議や、国会議事堂、豊洲市場、明治神宮などを訪れフィールドワークを実施。全体の活動を通じて相互理解を深めた。

開催時期： 2023年8月13日～25日

開催地： 東京（国立オリンピック記念青少年総合センター合宿・本会議本郷）

参加人員： 日本10名、ロシア12名 計22名

8「日英学生会議」 (40万円)

2016年創立。学生たちが幅広い視野を持って日英間の国際交流の発展に貢献することを目的とし、日英に共通する社会的・政治的課題に焦点を当て議論する会議体で、本年度のテーマは「ナショナル・アイデンティティの探究」とし、民族意識の形成、現代史における動向など歴史、政治、文学や社会運動文化などについてレクチャーを受講し参加者同士の議論も積極的に行われた。また、パブクイズ方式での日英文化交流会も含め行われた。日英交互開催で今回は東京で対面開催された。

開催時期： 2023年8月2日～12日

開催地： 東京（国立オリンピック記念青少年総合センター）

参加人員： 日本14名、英国14名 計28名

9「日本ルワンダ学生会議 第20回本会議」 (50万円)

2005年発足。ルワンダから学生3名が来日し、日本側メンバー13名と14日間共同生活しながら、空調メーカー・ごみ処理施設・コーヒーメーカーなどの施設訪問を通じて知見を広げ、和太鼓体験、京都散策、納涼祭りなどの文化交流を通じて、両国の相互理解の促進と友好関係の構築を進めることができた。本会議では「発展の弊害を再考して、両国の今後の発展のありかたを考える」をテーマにディスカッションが行われた。

開催時期： 2023年8月7日～21日（本会議 8月13日、20日）

開催地： 日本（東京・京都・大阪）

参加人員： 日本13名、ルワンダ3名 計16名

10「北東アジア学生ラウンドテーブル2023（SRT2023）」 (30万円)

2007年発足の国際教養大学の学生団体。各国学生間の相互理解を達成し、活動の成果を地域社会に発信、維持・拡大することが目的。日本、モンゴル、韓国、台湾、香港などの大学生（計49名）が台湾に9日間集い、今年度は「国際支援」「ビジネスと経済」「エネルギー」「都市と地方」について議論、発表した。同時に台湾の歴史、伝統文化に触れるスタディーツアー、文化交流会も開催された。

開催時期： 2023年8月7日～15日

開催地： 台湾（国立政治大学）

参加人員： 日本19名、韓国8名、香港2名、台湾20名 計49名

11「Y7_2023(Japan)、主催・派遣事業およびY20_2023(India)派遣事業」 (30万円)

Y7及びY20への日本代表団派遣を目的とした事業。世界中から母国を代表するユース（39歳以下の学生、社会人）が集いG20に政策提言を行うもので、日本からは9名が代表として派遣された。今年度は、「環境問題と防災」「医療と健康」「平和構築」などにつき分科会での論点整理を経て、8月のサミット本会議では白熱した議論が続き、G7・G20のリーダーへの政策提言が行われた。

開催時期： 2023年4月7日～13日（東京/日本）Y7サミット本会合

2023年8月16日～21日（ヴァラナシ/インド）Y20サミット本会合

開催地： 東京（日本）・ニューデリー（インド）

参加人員： G7メンバー国とオブザーバー国代表団 35名（うち日本代表4名）

G20メンバー国とオブザーバー国代表団 100名（うち日本代表5名）合計135名

12「模擬国連会議全米大会41代日本代表団派遣事業」 (30万円)

毎年開催される模擬国連会議全米大会で、日本からは9名の大学生の代表団を送った。3週間の派遣で、提携校の訪問、異文化交流、国連機関や政府代表部、UNICEF等の訪問などの後に5,000人以上の規模の全米大会に参加しSDGsの達成に向けた国際協力など様々な国際問題について議論し政策調整を行いながら合意の形成を図った。

開催時期： 2024年3月14日～30日

開催地： 米国（テキサス州ウェーコ・ニューヨーク州ニューヨーク）

参加人員： 日本9名、米国提携校9名

13「グローバル・ネクストリーダーズフォーラム2024本会議東京大会」 (40万円)

将来の世界を担う可能性と意思を持つ学生が一堂に会し、年に1度東京で開催される国際学生会議。

14 回目の今回は、チュニジア、メキシコ、ハンガリーなど 6 か国から 27 名を招き、「情報統制と個人の権利」をテーマに、多様な切り口からなるグループディスカッションや専門家による講演、フィールドワークなどが行われた。この他、文化交流や観光を通じ参加者の相互理解と交流を深めた。

開催時期： 2024 年 2 月 20 日～2 月 29 日

開催地： 国立オリンピック記念青少年総合センター（東京/日本）

参加人員： 日本側運営委員 6 名、海外学生 27 名（チュニジア 10 名 メキシコ 8 名
ハンガリー 5 名 ブルガリア 2 名 スロバキア 1 名 パキスタン 1 名）

14 「第 69 回 国際学生会議」 (40 万円)

「世界平和達成への貢献、学生の主体性の育成、多様性の尊重、社会への貢献」を理念とし、世界各国から学生を日本に集め学術・文化交流を中心とした会議を開催。本年度テーマは「次世代を担う開拓者になろう～多様性に溢れ、持続可能で互いを尊重しあえる社会を目指して」。世界各国の学生による事前会議、分科会での議論を経て、8 月本会議では文化や価値観の違いを乗り越え、濃密な議論が行われ、成果発表会にて公に発信された。

開催時期： 2023 年 8 月 19 日～8 月 28 日

開催地： 国立オリンピック記念青少年総合センター（東京/日本）

参加人員： 9 カ国 日本在住学生 21 名 海外在住学生 12 名 計 33 名

<国際交流>

15 「MrJ プロジェクト第 21 回 日本語夏季講習サマースクール」 (30 万円)

日本留学を目指す卒業生・在校生を対象とした 1 か月のサマースクール。日本留学試験対策に加えて、日本語で様々な社会問題を考えるアクション型学習も行う。上級生プログラムでは「互いに学び、伝え合い、共に生きる未来を創造していく」ことを目的に、モンゴルの社会問題に目を向け視野を広げる機会も作られている。日本からの派遣メンバーにとっては異文化交流、体験の機会となった。

開催時期： 2023 年 7 月 24 日～8 月 18 日

開催地： モンゴル・ウランバートル市 新モンゴル小中高一貫学校

参加人員： 活動メンバー 21 名 (モンゴル 12 名・日本 9 名)、現地参加生徒 242 名

16 「フィリピン イロイロ市における出前実験事業の実施」 (20 万円)

フィリピンにおける教育の質向上及び日本から参画する学生の国際的視野開発に貢献する教育プロジェクト。日本の大学生が現地の小中学校の生徒を対象に、見て理解できる理科実験授業を地域 3 か所で計 4 回実施した。本活動を通し小学校のみならず大学とも提携関係を形成し、更なるコラボレーションも確認できた。

開催時期： 2024 年 3 月 17 日～25 日

開催地： イロイロ、ギマラス、バコロド（フィリピン・ヴィサヤ諸島）

参加人員： 日本側高校生 5 名、実験参加小中学生 117 名

17 「MPJ Youth 2023 年度アフリカ研修」 (30 万円)

2009 年設立。「アフリカを学び、発信する」を活動理念に、双方向的交流と国際理解を実現し、参加者のアフリカ理解の深化を目指す。13 名の日本人学生が 2 週間のジンバブエ研修に参加し、日本の政府機関・現地の学校・企業・病院等の訪問、ジンバブエ大学の学生と文化交流や意見交換を行った。

開催時期： 2024年3月1日～18日

開催地： ジンバブエ（ハラレ・マシゴ・ブラワヨ・ヴィクトリアフォールズ）

参加人員： 日本側13名 ジンバブエ側関連機関、訪問地先職員多数

18 「コロナ禍におけるモンゴルの助産師卒後教育『分娩期のケア』の向上のための交流事業」
(40万円)

コロナ禍における日本とモンゴルの命の誕生の文化を支えるべく、両国の助産技能サービスと教育の向上を目指した交流事業。分娩期の安全に主眼をおいた助産師のケアを中心に交流を図る。日本の実情を紹介し、モンゴルでのワーキング検討会を4回実施した後、モンゴルで実践可能な助産業務のガイドラインを作成することを目指す。

開催時期： 2023年7月2日、7月30日、9月3日、2024年2月18日

開催地： バーチャル開催（ZOOM会議システムを使用）

参加人員： 日本12名（うち外部委員9名）、モンゴル助産師会役員7名

19 「Global Classmates Summit 2023」 (25万円)

日本語を学ぶ米国の高校生と英語を学ぶ日本の高校生が、インターネット上で繋がり意見交換し、互いの国や文化への理解を深め、国際的な視野を持つ次世代リーダーを育成する交流プログラム。バーチャル開催の中、「日米関係」「異文化理解」「多様性と国際社会」「AIとジャーナリズム」などといったテーマについて自らがスピーカーとなり活発な議論を通じて視野を広げ、考えを深めた。

開催時期： 2023年7月14日～8月10日

開催地： バーチャル開催（ZOOMを使用）

参加人員： 選抜日米生徒各7名 合計14名 サミット参加者総数2,129名

20 「ICTのポテンシャルに関する若者の国際ワークショップ」 (50万円)

パプアニューギニア(PNG)における唯一の日本語指導機関であるソゲリ国立高校の学生を招待し京都と奈良で日本の高校生やPNG出身の留学生らと交流する。「SDGs達成に向けたICTの可能性」をテーマとして奈良先端大で国際ワークショップに参加。更に奈良女子高の生徒との異文化交流、京都コンピューター学院での各種デモンストレーション事業なども体験し、世界の若者と相互交流ができた。

開催時期： 2023年8月25日～9月1日

開催地： 奈良先端科学技術大学院・奈良女子高校・京都コンピューター学院ほか

参加人員： PNGソゲリ高校4名及び日本での在住者2名 日本での受入関係者63名

21 「湘南プログラム」 (20万円)

湘南地域とインドネシアのバンドン市における青年交流活動プログラム。インドネシアの日本学科の学生10名を招聘し、藤沢市の中学4校、茅ヶ崎市の小学校1校と授業参加、民族舞踊や楽器の披露、国の紹介などを通じて交流を図った。

開催時期： 2024年1月21日～2月1日

開催地： 茅ヶ崎市立小学校1クラス・藤沢市立中学校4クラス

参加人員： インドネシア日本語学科生10名 藤沢市4中学校、茅ヶ崎市1小学校生徒

22 「Global Talk!」 (40 万円)

在日アメリカ大使館の助成対象プログラムとして幅広い層の学生に対し国際人への成長のきっかけを提供することを目的に、アメリカで日本語を学ぶ学生と日本で英語を学ぶ学生をオンラインで結び、SDGs を始め、様々なトピックについて議論し相互理解、興味を深化させた。交流校訪問プロジェクトも実施し、日本から 4 名の学生がハーバード大学ほか 3 校で対面交流の機会も持てた。

開催時期： 2023 年 8 月 7 日、2023 年 9 月 1 日～2024 年 4 月 19 日

開催地： オンライン及びハーバード大学、イエール大学ほか 2 校で対面交流

参加人員： 米国参加 16 校 590 名、日本参加者 96 名(大学 65・高校 21・中学 10)

23 「Hallo Deutschland 2023」 (40 万円)

18-30 歳までの書類選考を通過した日独の若者それぞれ 20 名ずつが合宿形式で交流し、「危機—私達にできること」をメインテーマに気候・エネルギー危機、ロシアのウクライナ戦略戦争等を前向きな気持ちで未来に目を向けようという思いで議論した。両国の若者が活発な議論や専門家・関連機関の訪問を通して解決策を生み出す機会となった。

開催時期： 2023 年 8 月 12 日～20 日

開催地： ドイツ (ベルリン)

参加者： 日本 20 名、ドイツ 20 名 計 40 名

24 「日アジア介護・リハビリテーション学び合いプロジェクト 3 年目～コロナ禍を越えて、高齢者が生き生きと生活できる社会を目指して～」 (50 万円)

タイ、ベトナム、ミャンマーなどに出向き、地域の高齢者に介護やリハビリテーションの普及活動を実施する団体。今年度は、地域で働くタイ人看護師 4 人を招聘し、埼玉・東京の介護や福祉の現場見学、体験を通じ、日本人との交流や高齢者ケアに関する意見交換が行われた。最終日には順天堂大学内にて日本で学んだことを振り返り、今後タイで実施したいことを発表する場も設けられた。

開催時期： 2023 年 11 月 1 日～5 日

開催地： 日本 (埼玉・東京)

参加者： 日本 7 名、タイ 4 名 計 11 名

25 「奨学生交流会」 ※財団主催事業 (170 万円)

財団の奨学生同志及び財団役職員との交流・親睦の為、並びに奨学生ネットワーク作りを目指し、毎年開く奨学生交流会。初日は、奨学生、財団役職員及び双日(株)の関係者も加わっての東京のホテルでの懇親会、2 日目は東京都内の研修バス旅行というプログラムで開催された。この交流会を通じ、奨学生同志の親睦が一層深まった。

開催時期： 2023 年 9 月 22 日～23 日

開催地： 双日(株)本社・都市センターホテル (東京) ・浜離宮・浅草寺・スカイツリー

参加者： 奨学生 23 名、 役員他関係者 29 名 計 52 名

< 日本文化紹介 >

26 「第 48 回ジャパンウィーク 2023 年スペイン・セビリア」 (40 万円)

伝統芸能、伝統工芸、美術、音楽など幅広いジャンルの日本文化紹介を通じて、日本への理解を深め、市民交流を図り、日本・スペインの友好親善に寄与する。舞台公演、展示、実演、ワークショップ、

茶道体験、学校と老人クラブの訪問交流など、幅広く日本文化を紹介すると同時にスペインの方々との国際交流も行われた。

開催時期： 2023年11月18日～24日

開催地： セビリア（スペイン）

参加者： 日本側51団体 370名、来場者15,000人

27「East meets West～シビウ国際演劇祭30周年記念・欧州文化首都ティミショアラ2023～新作能「ファウスト」 (50万円)

30周年の節目を迎えるシビウ国際演劇祭で「ファウスト」を「西洋と東洋の古典作品の融合」として共同制作し上演された。伝統芸能の能の魅力と芸術性の高さ、「日本の心」を世界に伝え国際交流を深めた。能公演が頻繁に実施されてこなかった東欧を中心とした地域で実施することで「本物の日本文化」の素晴らしさを現地の人々に伝え、国際親善が実施された。

開催時期： 2023年6月30日・7月3日

開催地： ルーマニア（ティミショアラ・シビウ）

参加者： 日本能楽師4名、劇場等3公演 81か国 約5,000人

28「TEAM NOSARU 2023年ヨーロッパツアー」 (40万円)

日本を代表する能楽舞踏家に、日本の古典楽器奏者とのアンサンブルを編成し、古典作品の演奏と創作作品の公演、ワークショップを通して日本文化の理解を深める文化交流を行う。フランス、デンマーク、スペインでの各公演は超満員の観客となり、日本の古典文化紹介に大きく資する機会となった。

開催時期： 2023年8月20日～9月5日

開催地： フランス（ブザンソン）・デンマーク（コペンハーゲン）・スペイン（バルセロナ）

参加人員： 日本9名、フランス公演200名・デンマーク公演100名・スペイン公演250名

29「日越大学 日本祭 VUJ Japan Festival」 (40万円)

日本とベトナムの友好と結束の象徴として設立された日越大学を舞台に、日越外交関係樹立50周年に地域社会に広く日本文化を紹介するイベントが実施された。「日越経済協力」をテーマとしたトークショー、「日越間の架け橋になるには」をテーマとした日本語プレゼンテーションコンテストなども開催され日本文化の紹介を通じ、より一層の日越間の友好関係の発展に貢献できた。

開催時期： 2023年9月30日

開催地： ハノイ国家大学ホアラックキャンパス（ベトナム）

参加人員： 日越大学ほかベトナム学生・教職員400名、日本人関係者40名

30「ふくい∞（無限大）Iowa アートプロジェクト」 (40万円)

今立現代美術紙展は、越前和紙を素材にした造形芸術分野を切り開いてきた展覧会で、福井県の和紙文化の普及啓発のためのセミナーや住民参加型学習会やフォーラムを開催している。35回目となる今年には福井県内の作家に焦点を当てて実施されたが、米アイオワ大から講師を招くなど、日本とアメリカを橋渡しするアートプロジェクトとなった。

開催時期： 2023年5月25日～12月15日

開催地： 福井県越前市

参加人員： 和紙作家、展覧者他721名 参加者754名 来場者数2,045名

<日本語普及事業>

31 「The 9th Japanese Language Inspired Vision and Engagement Talk (The 9th J.LIVE Talk)」 (30万円)

アメリカで日本語を学習している高校生・大学生を対象にした日本語スピーチコンテストで今回 9 回目。全米から応募した学生 83 名から選ばれた参加者 12 名がプレゼンを行い、賞金のほか、優秀者には日本での夏期講習の機会が与えられた。

開催時期： 2023 年 11 月 12 日

開催地： ジョージワシントン大学にて対面形式開催

参加人員： 全米 11 州 応募高校生・大学生 83 名 大会当日プレゼンファイナリスト 12 名
最終選考審査員 5 名 運営委員 5 名 学生ボランティア 62 名 観客 93 名

32 「31th National Japan Bowl」 (40万円)

全米各地で日本語を学んでいる高校生が、日本語能力のみならず日本の文化・習慣・歴史・地理・時事・日米関係など、幅広い分野について競い合うクイズボウルの全米大会。日本語学習を楽しみ、日本への関心をさらに高め、大学においても日本語学習を継続してもらうことが目的で約 200 名の高校生が参加。2020 年からオンライン開催が続いたが、今回はホールに招集し、ライブストリーミングの動画配信も同時に.行われた。

開催時期： 2023 年 4 月 13 日～14 日

開催地： メリーランド大学、マリオットホテル&カンファレンスセンター (米国)

参加人員： 米国 13 州及び地域、51 チーム、155 名の高校生

33 「タイビン地域における日本語学習者増加プロジェクト(2023 年度)」 (50万円)

2016 年以来タイビン医療短期大学で留学・就職支援として日本語教育支援を実施してきた団体で、日本語教師がおらず日本語センターもないベトナムの地方都市タイビン地域に 23 年 12 月、初の「日本語センター」を設置。日本語教育を行い日本での就学や就労のきっかけを提供、並びに日本文化に興味を持ってもらうべく「獅子舞鑑賞」など日本文化体験イベントなども同時に実施した。

開催時期： 2023 年 3 月 19 日～2023 年 12 月 10 日

開催地： ベトナム タイビン地域

参加人員： 日本語学習受講登録者 86 名、日本文化体験イベント 51 名

34 「ベトナムの学生と子供たちへの日本語集中講義と現地日本語教師レベルアップ支援」 (30万円)

ベトナム・ダナン市の学生（ドンア大学生および児童養護施設の中高生）に 2 週間の日本語集中講義を行うため日本語講師ボランティアを派遣する。また現地で日本語講師を目指す大学生と社会人を対象に 3 日間のスキルアップ研修も実施。ベトナムの若者の就業や日本での就職活動の支援を目指し、日本人の国際貢献の場を提供することも副次効果と考えている。

開催時期： 2024 年 3 月 11 日～22 日 (日本語集中講義)

2024 年 3 月 21 日～23 日 (日本語講師研修)

開催地： ベトナム・ダナン市 ドンア大学

参加人員： ドンア大学日本語学生 197 名 ベトナム人講師 9 名 日本人講師等関係者 8 名

35「アジア人材還流学会 フェ国際セミナー2023」 (50万円)

当学会はアジアと日本における外国人雇用の定着を目的とし、毎年国際セミナーを開催してきたが、今回は日越友好50周年記念行事の一環としてフェ外国語大学において開催された。本国際セミナーではベトナム人の雇用と定着のために日本語教育機関が情報を共有し、継続的かつ共に発展性のある協働的体制を構築することを目指したもので、日越連携に寄与する人材の育成と課題の共有がなされた。

開催時期： 2023年9月17日

開催地： ベトナム フェ省 フェ大学

参加人員： フェ大学教員、学生他150名 日本人現地参加者38名、オンライン参加者61名
合計249名

36「ミャンマーの少数民族の方などを対象とした『日本語学校』」 (50万円)

ミャンマーのヤンゴンで夜間に日本語を学びたい人に向けた事業で生徒は日本語学校に行く経済的余裕のないミャンマー人が対象。週3回1日2時間のレッスンが行われ本事業で日本語を学んだ生徒のうち4名が来日し就職・結婚することができた。

開催時期： 2023年4月1日～2024年3月31日

開催地： ヤンゴン（ミンガラドン地区）

参加人員： ミャンマー人生徒9名 日本語講師1名

b. その他の事業

「その他の事業」として、次の2事業を行った。 合計220万円

1. 財団ホームページの更新・運営 (66万円)

前年度に引き続き、外部に対する情報発信ツールとしての財団ホームページの更新・維持・運営を行った。

2. 「財団だより - 第20号」の発行 (154万円)

2023年10月「財団だより - 第20号」を発行し、関係省庁、他財団ほか助成先、財団関係者、出捐会社の双日株式会社の本社・支社・海外店及び関係会社に配付し、2022年度の事業報告及び財団の活動のPRを行った。

[II] 管理・庶務事項

- 2023年 4月1日 2023年度奨学生募集を開始
- 5月9日～19日 会計監査人による決算期末監査及び監査報告会
- 5月23日 第105回選考委員会を紙上開催
・2023年度奨学生を選考
- 6月2日 第112回理事会を開催
・2022年度事業報告書・決算報告書承認
・公益目的事業実施準備基金取崩承認
・2023年度奨学生承認 ・定時評議員会開催決議
・理事長・専務理事の職務執行報告
- 6月16日 第80回評議員会・第113回理事会を同時開催
・任期満了に伴う評議員・理事・監事選任決議（評議員会）
・2022年度事業及び決算を報告（評議員会）
・代表理事・業務執行理事選任決議（理事会）
- 6月30日 2022年度事業報告書並びに決算報告書を行政府「内閣府」に提出
- 9月22～23日 「財団奨学生交流会」を開催
- 10月16日 機関誌「財団だより」（第20号）を発行
- 11月1日～12月21日 2024年度国際交流助成案件の申請受付
- 2024年 1月15日 内閣府による当財団の運営組織及び事業活動の状況に関する立入検査
- 2月14日 第106回選考委員会を開催
・2024年度助成案件を選考
- 3月4日 第114回臨時理事会を紙上開催 第81回臨時評議員会開催決議
- 3月13日 あずさ監査法人による期中監査を実施
- 3月14日 第81回臨時評議員会を紙上開催
川上理事辞任に伴う後任理事選任決議
「理事、監事及び評議員に対する報酬等支給基準規程」の改訂承認
- 3月25日 第115回理事会を開催
・2024年度助成案件及び事業計画案を承認
・2023年度決算見通し、2024年度収支予算案を承認
・2023年度公益事業実施準備基金繰入承認
・任期満了に伴う選考委員及び後任委員選任
・川上専務理事辞任に伴う後任専務理事選任決議
・理事長・専務理事の職務執行状況の報告
・「理事、監事及び評議員に対する報酬等支給基準規程」の改定報告
- 3月28日 2024年度事業計画書及び収支予算書を内閣府に提出
- 3月29日 あずさ監査法人による理事者ディスカッションを実施

以 上